

日本歯科衛生学会雑誌「投稿の手引き」

1 投稿の方法

- 1) 投稿は、ウェブ上の日本歯科衛生学会論文投稿システムにオンラインで論文の投稿を行う。
- 2) 投稿は、原稿（本文および図表）、「著作権委譲承諾書」、「日本歯科衛生学会雑誌の投稿論文に関わる利益相反（COI）自己申告書」を論文投稿システム上へアップロードする。「日本歯科衛生学会雑誌の投稿論文に関わる利益相反（COI）自己申告書」は、初回の論文投稿時に著者全員分を添付すること。学会より論文受理の連絡があった後は、完成した論文をシステム上へアップロードする。
- 3) 原稿ファイルは、本文は Microsoft Word 形式とする。図表は Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG 形式とする。
- 4) 二次出版論文投稿については、日本歯科衛生学会ホームページ内の「二次出版論文投稿の手引き」に従い、学会事務局に連絡のうえ、編集委員会の承諾を得る。

2 投稿原稿の作成方法

〔原稿の様式〕

- 1) 原稿は、A4、1頁800字（40字×20行）、12ポイントで横書きとする。日本語は、口語体、新かなづかい、ひらがなとし、フォントはMS明朝とする。英数字は、すべて半角で入力し、原則として Times New Roman を使用する。
- 2) 英文原稿は、ダブルスペースで12ポイントを用いる。
- 3) 原稿は必ず表紙から通し頁番号をつける。
- 4) 刷り上り原稿の長さは、原則5頁とする（和文の場合は1頁約1800字、英文の場合は1頁約1000語）。また、図表は、各1枚が本誌の片段に収まるものを標準サイズとした場合、6枚で刷り上り1頁とする。

〔原稿の記述様式〕

- 1) 原稿の表紙には、中央上段より和文による表題、著者氏名（姓名間はスペースを空けない、著者氏名間はコンマで区切る）、所属都道府県歯科衛生士会名、所属機関名（勤務先）、英文による表題（文頭のみ大文字使用）、著者氏名（姓-名の順で、姓はすべて大文字、名は頭文字のみ大文字で記載、コン

マで区切る、コンマは和文の場合には「全角」、欧文の場合には「半角+半角スペース」とする、括弧（）は「全角」、キーワード（索引用語：3～5語）の順に1行ずつあけて記載する。

複数の著者で所属が異なる場合は、著者氏名の右肩に番号を振り、所属機関名については著者の下に記載すること。なお、所属が複数かつ都道府県歯科衛生士会名が含まれる場合、所属都道府県歯科衛生士会名を先に記載すること。

例) ○原○子^{1,3)}、○田○〇²⁾

- 1) 所属都道府県歯科衛生士会名 A
- 2) 所属都道府県歯科衛生士会名 B
- 3) 所属機関名 C

2) 原著論文は原則として、はじめに（または緒言）、対象および方法、結果、考察、結論、引用文献の順に記載する。症例報告では、はじめに（または緒言）、症例の概要、治療経過、考察、結論、引用文献の順に記載する。また、英文抄録（300語以内）と、和文抄録（600字以内）を記載する。原著論文以外の論文もこれに準ずるが、英文抄録および和文抄録は必ずしも必要としない。和文抄録、英文抄録は原則として、目的、対象および方法、結果、結論の順に記載する。また、大項目間は1行空けること。

3) 文中の項目を細分する場合は、I. II. . . , 1. 2. . . , 1) 2) . . . , (1) (2) . . . , a b . . . の順とする。

4) 微生物、動植物などの学名は、二名法によりイタリックとし、最初の文字だけ大文字で書く。たびたび使用する場合は、2回目以後、属名を省略してもよい。

例) *Streptococcus mutans* ⇒ *S. mutans*

5) 歯式の記載方法

本文中の歯式は漢数字を用いて、上顎右側第一大臼歯のように具体的に明記するか、Zsigmondy' s system（例：右上6）、あるいはTwo-Digit system（例：16）を用いて表記する。

6) 図表の書き方

- (1) 原則として、データを図と表に重複して記載しない。また、図表の枚数は必要最低限にとどめる。
- (2) 図表の説明は、原則として本文と同一の言語と

し、図1、表1と記載する。本文で引用順に、図(写真を含む)は、図1、図2・・・、表は、表1、表2・・・のように一連番号を付けて、本文の最後に記載する。図表は本文とは別にファイルで提出する。

(3) 本文中の挿入箇所を本文中該当部分の右欄外に図1などと朱書きする。

(4) 図(写真を含む)、表は、原則として、白黒プリントとする。

(5) 図のタイトルは下に、表のタイトルは上に記載する。

7) 引用文献について

(1) 本文中の文献引用箇所には、その右肩に一連番号を付した文献番号を記載する(例えば、「金澤らは・・・ということを指摘している¹⁵⁾。」のように)。

(2) 本文最終項目の「引用文献」欄に次のように番号順に記載する。また、同一箇所でも複数引用した場合は、年代順に並べる。同時に多数の文献を引用する場合には、「・・・多数の報告がある^{2,3,7)}。」「・・・の報告がある¹⁻¹⁰⁾。」

(3) 雑誌論文の場合は、著者名(全員とする):表題、掲載誌名、掲載巻(号):通巻頁の始-終、西暦年. の順に記載する。雑誌略名は、当該雑誌で規定されている略名を採用する。

例) 1) ○原○子, ○田○:学童期における永久歯齲蝕罹患予測指標の検討, 日衛学誌, 2(2): 13-18, 2008.

2) Yoshida N, Aso T, Asaga T, Okawa Y, Sakamaki H, Masumoto T, Matsui K, Kinoshita A: Introduction and evaluation of computer-assisted education in an undergraduate dental hygiene course, Int J Dent Hygiene, 10(1): 61-66, 2012.

(4) 単行本の場合は、著者名:表題、書名、発行所、発行地、版、西暦年、引用頁の始-終の順に記載する。

例) 1) ○井○子:高齢者の口腔ケアとQOLの向上, 歯科衛生士のための高齢者歯科学, 永末書店, 京都, 第1版, 2005, 299-304.

(5) インターネットウェブサイトから引用する場合、引用箇所には引用順に文献番号を掲載する。著者は、読者からの請求があったときには、引用したウェブサイトの該当頁を送付できるように、手元に保管しておくこと。但し、極力、原著論文からの引用に努めること。

例) 文部科学省・厚生労働省省令: 歯科衛生士学校養成所指定規則. 文部科学省・厚生労働省. 平成二七年三月三十一日改正. <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25F03502001001.html> (2016年11月1日アクセス)

8) 原稿の終わりに「著者への連絡先」として、筆頭著者名と責任著者名を記載すること。責任著者は、論文掲載後に論文の責任者として問い合わせを受ける著者である。それぞれの氏名、所属、E-mailアドレスを記載すること。筆頭著者と責任著者が同じ場合は、筆頭著者のみでよい。